

文学から思い描く、美しい物語

読む「宝石と腕時計」

大切なジュエリーと時計の美しさを、永遠に心の中にとどめておけたなら……。時を超えて読み継がれる文学作品の中に、宝石や時にまつわる表現を見つけたならば、私の宝物は一生の輝きを得るはず

シャルル・ボードレール | 『悪の華』

金属と珍しい石に光り輝くこの世界は
私の魂を恍惚に蕩かし、音が光に混り合う
物のすべてを、私は無我夢中に愛する。

(ちくま文庫) p.326より

ティファニーのジュエリーに込められた反骨心や官能性は現代の女性が生き抜くマインドに必要なもの。ときには、『悪の華』に描かれているように、それまでに得た固定観念や道徳観を越えていくような大胆さを携えて身につけたい。そぎ落としたスタイルにこそ、パワフルに輝く相棒になるはず。「ティファニー タイタン by ファレル・ウィリアムス」クラスプ ネックレス(YG、ダイヤモンド) ¥5,995,000・「エルサ・ペレッティ™」 ボーン カフ (ラージ) (YG) ¥5,830,000 / ティファニー・アンド・カンパニー・ジャパン・インク(ティファニー) ドレス ¥159,500 / コロネット(フォルテ フォルテ)

※この特集で、以下の表記は略号になります。YG(イエローゴールド)、WG(ホワイトゴールド)、PG(ピンクゴールド)、RG(ローズゴールド)、SS(ステンレススチール)



ジョン・キーツ | 『エンディミオン』

美しきものはとこしえに喜びである。
そのめでたさはいや増すばかり、それが無に
帰することは絶えてなく、常に吾らがため
寝間を静粛に保ち 眠りをば
佳き夢と健康と安息もて満たしやまない。

岩波文庫 p.21より

映画『メリー・ポピンズ』(64)で引用されるなど
普遍的な美と愛について描写したキーツの物語詩
は、宝石を目の前にしたときのときめきと重なる。
カルティエの「グランドゥ カフェ」は上質なイ
エローゴールドの地金でコーヒー豆を表現。ふっ
くらとしたフォルムが目を引くカルティエの名品
ジュエリーを眺めながら、自然美の奥深さに想い
を馳せて。「グランドゥ カフェ」ネックレス(YG、
WG、ダイヤモンド)¥1,663,200/カルティエ
カスタマー サービスセンター(カルティエ)



三島由紀夫 | 『女神』(「蝶々」)

その白い手は、卓の上に軽く、しかし何か豊かな感じに置かれていました。
そこに私は優雅な楕円の輪廓をもったサファイヤの指環を見ました。
青い宝石、紺碧の宝石。……海の宝石。

——そう考えて、私はある迷信じみた強い印象にぶつかりました。

これが海だったのだ。これが私とあなたとの間の海だったのだ。

この妖しい宝石の魔力が、あなたと私とを隔てたのだ。……

(新潮文庫) p.204より

テラコッタ色に艶めくヒトデのクリップはエネルギーに満ちあふれた海を象徴するモチーフ。薄い縞模様が浮かび上がるレッドジャスパーの石とリズムカルなローズゴールドの線取りも鮮やかだ。ある男が思い描いた理想の女性をつくり出そうとする短編「蝶々」にも海は永遠の美への思いをかき立てる象徴として表現される。魅惑的な宝石の虜になる甘美さは何にも替えがたい。「ラッキーサマー」スターフィッシュクリップ(RG、レッドジャスパー)¥808,500/ヴァン クリーフ&アーペル デスク(ヴァン クリーフ&アーペル)



宮本 輝 | 『ドナウの旅人』

「賢過ぎる女も、それに愚か過ぎる女も、人生を劇のように生きられないわ。でも、それが楽しい劇だろうと哀しい劇だろうと、平凡な劇だろうと、劇のない人生に真のしあわせなんかありませんよ。そして劇は偶然に訪れたりしないわ。さあ、そろそろ準備をなさい。忘れ物はない？」

(新潮文庫) p.116-117より

若い恋人と逃避行した母とそれを追う娘。国境を超える二人の旅はどこにたどり着くのか？ 小説『ドナウの旅人』に描かれる、母娘の劇的な物語を読み進めると、まるで舞台を観ているような感覚に誘われる。ダイヤモンドとパールフレームが目玉の「リンケージ」のジュエリーは私たちの人生を特別な舞台であるかのように切り取る。「リンケージ」イヤリング(WG、あこや真珠、ダイヤモンド、タンザナイト、アクアマリン) ¥3,300,000・ペンダント(WG、あこや真珠、ダイヤモンド、ブルージルコン) ¥1,980,000 / TASAKI ドレス ¥242,000(ヌメロ ヴェントゥーノ)・ブラウス ¥83,600(コート)/イザ



シェイクスピア | 『ロミオとジュリエット』

大空中の、ことにも美しい二つの星が、何か用事にでも呼ばれて往って、
帰るまで、代りに彼女等の星座に瞬ひらめいていてもらいたいと、
姫のあの二つの瞳ひとみに頼んでいるのだ。もしあの瞳が、
大空に輝いて、代りに星どもがあの顔に輝くとしたらどうだろう？
ちょうど日の光の前のランプのように、あの姫の頬の美しさは、
それらの星どもをさえ恥はじ入らせるに相違ない。天に挙げられたあの瞳は、
大空一杯に光をみなぎらせ、ために小鳥たちも歌声をあげ、
夜を昼と見紛うかもしれぬ。おお、あの片手に頬を倚よせかけた姿！
かなう願いなら、いっそあの手を包む手袋になってみたい、
そしてあの頬に触れていたいのだ！

(新潮文庫) p.73-74より

古典の名作からは、愛する人への情しめない賛辞を天体になぞらえた一節を選びたい。美しいジュリエットの横顔を思い浮かべ、そこに星空や太陽の輝かしさを見出すロミオのロマンティックな表現は、いつの時代にも胸をときめかせる。無数の星が女性の横顔に流れていくようなダイヤモンドのロングピアスはそんな気分にもフィットするはず。[MIMOSA] ピアス(WG・ダイヤモンド) ¥5,357,000 / ダミアーニ 鎖座タワー(ダミアーニ) ジャケット ¥126,500 / ハルミ ショールーム (AKIRANAKA) シャツ ¥39,600・タートルネックニット ¥28,600・POSTELEGANT



p.86

『TIMELESS』
朝吹真理子著

「融通無碍な語りで読み手を魅了する、著者3冊目となる小説。恋愛感情を持たずに入籍した、高校の同級生、うみとアミ。現代の麻布台で徳川家光の母、江姫の火葬時の香木を焚きしめる匂いを嗅いだり、人間とクラゲの物理的隔たりを超越したり。不思議な物語世界の中に、先立つ時間と到来する時間の両方を含んだ「永遠」が立ち上がってくるよう。酔いにも似た、自在に伸縮する時間感覚が味わえます。」(江南さん) ¥1,650/新潮社



p.83

『女神』
三島由紀夫著

「『蝶々』はこの本の中の短編。プッチーニのオペラ『蝶々夫人』と、「マダム・バタフライ」と呼ばれた日本人オペラ歌手、三浦環がモチーフとなっています。主人公が戦地に赴いている間に人妻となっていた女性に宛てた手紙と、二人の再会後の出来事が物語の主軸です。登場する女性たちの儂い命を蝶々のイメージに、そして人と人との距離感を海の情景に重ねながら、喪失の美学を耽美的に描いています。」(中野さん) ¥781/新潮文庫



p.80

『対訳 キーツ詩集』
ジョン・キーツ著/宮崎雄行編

「ロマン派詩人ジョン・キーツの詩集に収録される。物語詩『エンディミオン』。ギリシア神話を題材に、羊飼いの青年エンディミオンが夢の中で出会った月の女神セレーネを探す旅を描く。豊かな自然描写と官能的な表現を織り交ぜながら、美と愛、そして人間の魂を探究する。詩の冒頭は、映画『メリー・ポピンズ』(64)や『夢のチョコレート工場』(71)などの作品で引用される有名な一節です。」(中野さん) ¥792/岩波文庫

宝石&腕時計と 合わせて読みたい10作

ジュエリーと時計、その比類なき美しさや神秘性に
通じる精神や表現を含む作品を選出。
書評家の江南亜美子さん、服飾史家の中野香織さん。
二人のエキスパートが推薦する計10冊を堪能したい



p.87

『ロミオとジュリエット』
シェイクスピア著/中野好夫訳

「中世のイタリア・ヴェローナを舞台に、敵対する名家の子供たち、ロミオとジュリエットの悲恋を描いた古典的名作。時代を超えた普遍的な魅力を持ち、21世紀においてなお映画化されたり翻案されたりしている。想像力を刺激するような、ロマンティックな比喩表現を多数含む本作。中でも中野好夫訳は、原文の詩的な要素や情感を損なうことなく、流麗で洗練された日本語を味わうことができます。」(中野さん) ¥572/新潮文庫



p.84

『月の三相』
石沢麻依著

「デビュー作で芥川賞を受賞した気鋭の作家の、二作目の長編小説。旧東ドイツに位置する街では、10歳になると「肖像面」を作り、時間の経過による変化を記録する習慣を持つ。幻想と現実、過去と現在を行き来しつつ、「不在の肖像」にまつわる謎が解明されていくストーリー。美とは何か、記憶とは何かと、根源的な問題がテーマに。時を刻むという抽象的イメージを、月と重ねた物語世界が美しいです。」(江南さん) ¥1,870/講談社



p.81

『30年目の待ち合わせ』
エリエット・アベカシス著
齋藤可津子訳

「1989年のパリ、20歳のアメリカ人とヴァンサンは恋に落ちる。だが待ち合わせの日のはずれによって、運命が暗転する。ままならぬ恋を胸に、遠い地でそれぞれ家庭を持った彼らは、30年もの隔たりののちに再会を果たします。王道的な筋書きながら、人生の重みを考えざるを得ません。初恋の相手と、長く現実的に向き合ってきた家族、どちらを選ぶのが幸せか。時間を超越する恋の強さに感動。」(江南さん) ¥2,310/早川書房



p.78

『ボードレール全詩集1 悪の華』
シャルル・ボードレール著
阿部良雄訳

「ボードレールの代表作として、19世紀半ばのフランスに衝撃を与えた問題作。一部が反道徳的であると削除を命じられたことも。生涯から死までを官能的、退廃的に表現し、当時の道徳観に正面から挑んでいます。社会の裏側に潜む美を鋭く切り取る詩人のまなざしは、現代を生きる私たちの心にも響くものがある。タブーに挑戦し、芸術の限界を押し広げたという意味で、文学史に輝く古典です。」(中野さん) ¥1,210/ちくま文庫

選者

江南亜美子さん
書評家

書評家・京都芸術大学准教授。新聞、文芸誌、ファッション誌などで、おもに日本の小説と翻訳小説を評する。共著に『世界の8大文学賞——受賞作から読み解く現代小説の今』(立東舎)など。

中野香織さん
服飾史家

ファッションの中でも、ラグジュアリー領域やイギリスのロイヤル文化を中心に研究。雑誌での連載のほか、『インベーター』で読む『アパレル全史』(日本実業出版社)など服飾史にまつわる著書多数。



p.85

『ドナウの旅人(上)』
宮本 輝著

「人生の岐路に立ち、ドナウ河畔への旅に出る50歳の絹子。娘の麻沙子が後を追う。ドイツから東欧へと続く壮大な旅が幕を開けます。異国の地で出会う4人の男女の複雑な関係の中に、文化の違いを超えた人間の本質、そして母娘の絆が描かれる。深く繊細な思索に裏づけられた自己探求と再生の物語。ヒロインたちと心の旅をともにする過程で、人生に新たな視点をもたらす味わい深い名言に出会えます。」(中野さん) ¥935/新潮文庫



p.82

『部屋をめぐる旅 他二篇』
グザヴィエ・ド・メーストル著
加藤一輝訳

「18世紀末、世界周遊とその探求に人々が夢中だったころ、メーストルは42日間かけて自分の部屋を旅し、記録するというユーモラスな書物『部屋をめぐる旅』を書きました。いくつかの続編のうちひとつが本作。自分にとって身近な室内の細部から、愛の記憶、星々の美しさ、自分という存在についてまで。恋人と一緒にいるときの倦怠も含んだ時間の流れは、いつの世も同じく特別です。」(江南さん) ¥3,190/幻戯書房



p.79

『時間』
吉田健一著

「外交官の父・吉田茂に従い、欧州に学んだ吉田健一。日本という枠組みの外から世界を見つけた彼は、晩年繰り返し、「時間はただ経過していく」と述べました。時間が不可逆的なのは当然ながら、地層のように降り積もっていく平面の時間をイメージせよと。現代の文明や私たちが生きる「時間」自体を考察する本書を読めば、縮こまった背すじが伸びるように、精神の自由が呼び起こされます。」(江南さん) ¥1,980/講談社文芸文庫